


ももたろう基金～「平成30年 7 月豪雨災害支援基金」～
【第 11 次緊急助成(子ども支援)】助成金申請書

【団体情報に関すること】

ふりがな	がくまび		
団体名称	がくまび		
代表者職名	代表	ふりがな	てらおあかね
		代表者氏名	寺尾朱音 
ふりがな			
団体住所	〒 岡山県岡山市北区一宮		
電話番号	080-6261-8028	F A X	
設立年もしくは活動年数	2019 年		
スタッフ数	有給スタッフ _____ 名・無報酬スタッフ _____ 16 名・ボランティア等 _____ 名		
団体HP(あれば)			
FBページ(あれば)	がくまび		
CANPAN登録(原則必須)	あり (星1つ) 【団体ID: 1581349543】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	副代表	ふりがな	いのうえもえか
		担当者氏名	井上萌香
郵送物送付先住所	〒 岡山県総社市中央 2-2-8 (FLCB 2階)		
担当者電話番号(極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

(事務局記入欄)

事務局記入欄 受付日・受付者	事務局記入欄 CANPAN 登録	有 ・ なし (予定 月 日頃)
-------------------	---------------------	------------------

申請事業の内容

事業名 (プロジェクト名)	がくまび
事業概要 (事業内容を簡単に)	西日本豪雨災害で被災した子どもたちのために、地域の人たちと一緒に、「楽しく学ぶ ぼくらの居場所」をつくること。
活動(予定)期間	2019年 8月 1日 ~ 2019年 8月 31日 (7月20日~7月31日準備期間)
活動(予定)場所	ぶどうの家ランチ、真備公民館服部文館・菌分館
受益者数	直接受益者 (20 名) 間接受益者 (名) ※いる場合
事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況) <ul style="list-style-type: none"> ・現状や支援対象者の状況(支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入) ・事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか <p>「夏休みに子どもが過ごす場所が家しかない」という保護者の声を聞いた山口大学、くらしき作陽大学、香川大学の学生が子どもの居場所づくりのための活動をはじめた。</p> <p>実際に、保護者から話を聞いたところ、被災した箭田や呉妹、川辺や岡田など異なる地区の保護者が、同じ悩みを抱えていることがわかった。「子どもを預ける場所がない」「みなし仮設に住んでいて、友達と遊べない」などといった悩みに応えるために、様々な地区で活動することにした。また、地域の人と話してわかった「子どもに自然の中で遊んでほしい」「地域の人が集まる場所をつくりたい」などの思いを形にする場所にする。</p> <p><がくまび>は、悩みを抱えている保護者や地域の人に心を寄せて、その声に最大限応える活動をする。</p> <p>その活動のなかで、子どもたちは初体験や新発見から将来につながる経験をする。そして将来、子どもたちが<がくまび>でした経験をもとに、自分の進みたい道を自分で考え、自分で選ぶことができるようになってほしい。</p>	
事業の実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことをいつ(回数等)やるのか <p>7月27日(プレ・説明会)、8月1日~8月31日の平日・土曜に、真備町や総社市内の集会所や公民館などの地域のコミュニティエリアで、ワークショップなどのプログラムを開催する。</p> <p>(活動予定)</p> <p>7月27日(土)プレ・説明会 (@ぶどうの家ランチ) がくまびに参加する小学生やその保護者を対象に、活動の主旨や活動内容などの説明を行う</p> <p>8月7日(木)プレイバックシアター (@真備公民館服部文館) グループワークを通じて、相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを伝えたりして人との関わり方を考える</p> <p>8月17日(土)木村家(家具職人)の工作ワークショップ (@木村家の工房) 普段使う機会の少ない工具を使って木工細工に取り組み、つくった作品で遊んだり、実際に使ったりする。</p> <p>そのほかの日についても、大学生や地域の人がプログラムを開催して、楽しみながら創造性や協調性を育てることができるような活動をする。</p>	

事業の実施体制

- ・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

<がくまび>学生メンバー

寺尾朱音（テラオアカネ）	くらしき作陽大学	子ども教育学部 子ども教育学科
井上萌香（イノウエモエカ）	山口大学	国際総合科学部 国際総合科学科
福井文菜（フクイアヤナ）	香川大学	創造工学部 防災・危機管理コース

<がくまび>連携・協力団体

でばーん計画	活動コーディネーター
ながおキッズ児童クラブ	学童指導員派遣
ふりすぺ	活動場所の提供
朝日医療大学校（安全対策委員会）	応急処置などの救護班
木村家	ワークショップの提供
SOSU	イベントの共催
FUN LIFE	活動場所の提供

事業実施後の展望

- ・助成期間後も活動を継続す場合はその内容や展望
- ・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

夏休みが終わってからも、子どもや保護者、地域の人に心を寄せて、「楽しく学ぶ ぼくらの居場所」となるように活動を続けていく。被災の有無に関わらず、地域全体で子どもや保護者、地域に住むすべての人が、困ったときに頼りあい、助け合える関係を築けるような場を作っていく。

また、小学生や中学生、高校生も<がくまび>でプログラムの企画・運営を経験し、地域の中で自分たちにできることを考え実行できるようにする。<がくまび>を受け継ぐ世代も一緒に活動することで、地域の人たちによって長く続く活動になることを目指している。

その他

- ・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

<がくまび>は、立ち上げて間もない大学生主体の団体であるが、地域の声に最大限応えられるように、地域の大人と連携しながら活動している。

プログラムやワークショップでは、「まなぼう」「あそぼう」「つながろう」という思いを形にする。

初体験や新発見から自分で考え、楽しく「まなぼう」

普段経験することの少ない活動で楽しく「あそぼう」

自分の体験と自分の未来が、自分と人が楽しく「つながろう」

この思いを、子どもやプログラムやワークショップを実施する人が持って活動を続けることで、地域の人の手による<がくまび>を続けてほしい。

実施予算 ※価格の根拠が分かるものなど必要に応じて添付ください。

※収入と支出の合計をあわせてください。

1) 本事業の収入

費 目	金 額	備 考
ももたろう基金	200000	
募金	50000	
合 計	250000	

2) 本事業の支出

費 目 (必要な場合算出根拠)	金 額	備 考
スタッフ昼食代 (500円×5人×22日)	55000	
保険代 (参加者傷害保険、施設所有 (管理) 者賠償責任保険)	15000	
消耗品	30000	
おやつ代 (1000円×22日)	22000	
飲料費 (お茶、アクエリアス、OS1 など)	15000	
施設利用費 (ぶどうの家ランチ) (2500円×2日)	5000	
施設利用費 (旭ヶ丘集会所) (1500円×4日)	6000	
運営スタッフ交通費 (500円×2名×22日)	22000	
活動費	30000	
備品 (救急セット、ブルーシート、運搬用具など)	30000	募金より
事務費 (文房具、ホワイトボード、印刷代など)	20000	募金より
合 計	250000	

備考欄

--